

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	196	しまくとぅば普及継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施(予定)年度	H26 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖繩の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)			
事業内容	しまくとぅばの普及・継承を図るため、人材養成講座等の開催や民間団体の取組みを支援する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	145,882	0	84,932	0	99,900	
		(b) 予算現額	145,882	0	84,932	0	99,900	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	145,882	0	84,932	0	99,900	
	B. 執行済額		131,585	0	72,590	0	91,104	
	うち交付金充当額		105,268	0	58,072	0	72,811	
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		90.2%	#DIV/0!	85.5%	#DIV/0!	91.2%	
予算の状況の説明		・執行率は91.2%で、報償費・旅費の執行残、需用費の入札残、委託料の入札残・執行残による。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	人材養成講座の開催	目標	10地域	20地域	20地域	20地域		
		実績	9地域	24地域	19地域	22地域		
	民間団体への補助	目標	10件	10件	10件	10件		
		実績	9件	12件	11件	14件		
達成状況説明	・市町村や地域の団体が行うしまくとぅばの講座を支援する「人材養成講座」の開催、民間団体への補助について、ともに目標どおり実施することが出来た。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(25年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(〇〇年度)	
	【R1成果目標】 ・しまくとぅばをあいさつ程度話せる人の割合		目標	58%	64%	67%	70%	—
			実績	58.0%	54.6%	49.8%	56.7%	—
	進捗状況説明	「しまくとぅばを主に使う」、「しまくとぅばと共通語を同じくらい使う」、「しまくとぅばを挨拶程度使う」人の割合の合計である「しまくとぅばを挨拶程度以上話す」人の割合について、目標値を下回ってはいるものの、令和元年度は前年度より6.9ポイント増となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①全県的な取組をさらに強化するためには、コーディネート業務が重要となるが、「しまくとぅば普及センター」人員は採用から日が浅い者もいること、自身になじみのないことばの地域における活動においては、地域の普及団体等との信頼関係構築に時間を要する場合もある。</p> <p>②しまくとぅば普及の全県的な取組につながるよう、講師養成講座及びしまくとぅば検定の実施回数及び実施場所を拡充することとしているが、これらの実施に期間を要している。</p>	<p>①全県的な取組を強化するため、市町村文化協会など、他のしまくとぅば普及関係団体と連携していく必要がある。</p> <p>②・しまくとぅば講師養成講座及びしまくとぅば検定について、実施回数の増、未開催地域での開催を検討するほか、実施体制も検討する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①全県的な取組を強化するため、市町村文化協会など、他のしまくとぅば普及関係団体と連携を強化する。</p> <p>②しまくとぅば講師養成講座及びしまくとぅば検定について、実施回数の増、未開催地域での開催を検討するほか、実施体制も検討する。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
94,047	91,014	72,811	18,203	0	0	3,033
沖縄県 交付対象 事業費 91,014千円	委託料 71,513千円	沖縄広告(株) 12,050千円	(しまくとぅばの普及促進に係る広報・イベント等開催事業委託業務)			
		アドスタッフ博報堂・MEDIAFLAG 沖縄共同企業体 7,528千円	(しまくとぅば県民意識調査業務委託)			
		沖縄県文化協会 51,935千円	(しまくとぅば普及センター事業委託業務)			
	補助金 8,900千円	YAマーケット 740千円	しまくとぅば普及促進事業費補助金			
		県立芸術大学琉球芸能専攻OB会 986千円				
		語やびら沖縄語ぬ会 417千円				
		宜野湾うちなあぐち会 549千円				
		特定非営利法人Okinawa Hands-On NPO 775千円				
		一般社団法人ウチナーグチスクール 570千円				
		しまくとぅばプロジェクト 330千円				
		沖縄県文化協会 1,000千円				
		株式会社クレスト 1,000千円				
		特定非営利法人 琉球交響楽団 867千円				
		劇団綾船 1,000千円				
	NPO法人沖縄県沖縄語普及協議会 666千円					
(受益者負担分 (交付対象外経費)3,033千円)						
印刷製本費 8,140千円	(しまくとぅば読本等の印刷製本)					
事務費 2,461千円	(報償費、旅費、需用費、役務費)					

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先及び補助事業者については、実績やノウハウなどを勘案した上で選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・補助事業については、NPOなどが主な補助先であるが、補助率は8割で2割は自己負担としており負担関係は妥当であると考えられる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・委託額や補助額を確定するときには、事業目的達成の観点から、必要な経費だったかなどを検査した結果、適正だったと認められた。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	199 デジタルミュージアム推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア				
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課 (博物館・美術館)	事業実施(予定)年度	H28 ~ R2 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)	
事業内容	民話や方言の普及を図るため、無形文化遺産のひとつである伝承話について動画コンテンツを制作する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和2年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,990	—	19,685	—	21,960
		(b) 予算現額	6,990	—	19,685	—	21,960
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額		—		—	
		A. 計(b+d)	6,990	—	19,685	—	21,960
	B. 執行済額		6,461	—	19,446	—	21,721
	うち交付金充当額		5,169	—	15,556	—	17,377
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		92.4%	#VALUE!	98.8%	#VALUE!	98.9%
予算の状況の説明		・執行率は98.9%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	25話の動画コンテンツの制作	目標	—	—	完成件数 25話	完成件数 25話	
		実績	—	—	完成件数 25話	完成件数 25話	
	H30に制作した動画コンテンツ25話について移動展での上映会を開催	目標	—	—	上映会開催 1回	上映会開催 1回	
		実績	—	—	上映会開催 1回	上映会開催 4回	
	H30に制作した動画コンテンツ25話について館内での上映会を開催	目標	—	—	上映会開催 1回	上映会開催 3回	
		実績	—	—	上映会開催 1回	上映会開催 3回	
	デジタル民話ミュージアムを構築し、H29/30に制作した動画コンテンツ31話等を配信	目標	—	—	—	配信件数 31話	
		実績	—	—	—	配信件数 31話	
達成状況説明	・収集した伝承話音声資料について動画コンテンツ25話を制作し、目標値を達成した。 ・伊江村で開催した移動展で、H30年度に制作した動画の上映会を行い、目標を達成した。 ・当館で開催した夏休み学芸員教室と民話上映会で、H30年度に制作した動画の上映を行い、目標を達成した。 ・デジタル民話ミュージアムを構築し、H29~H30に制作した動画コンテンツ31話を配信し、目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)
	①動画コンテンツを閲覧した者(移動展、館内での上映会、インターネット)に対して、民話や方言に対する関心が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	—	—	80%	80%	—
		実績	—	—	83%	86%	—
	②動画再生回数	目標	—	—	—	4000回	—
		実績	—	—	—	4301回	—
	【R2成果目標】動画再生回数		目標				17,360回
		目標					
進捗状況説明	①動画コンテンツ(H30作品)を閲覧した方に、どの程度民話や方言に関する関心が高まったか、事業のあり方等のアンケートを実施し、関心が高まった割合が86%と目標を達成した。 ②当館HPにデジタル民話ミュージアムを開設し、再生回数は4,301回と目標を達成した。						

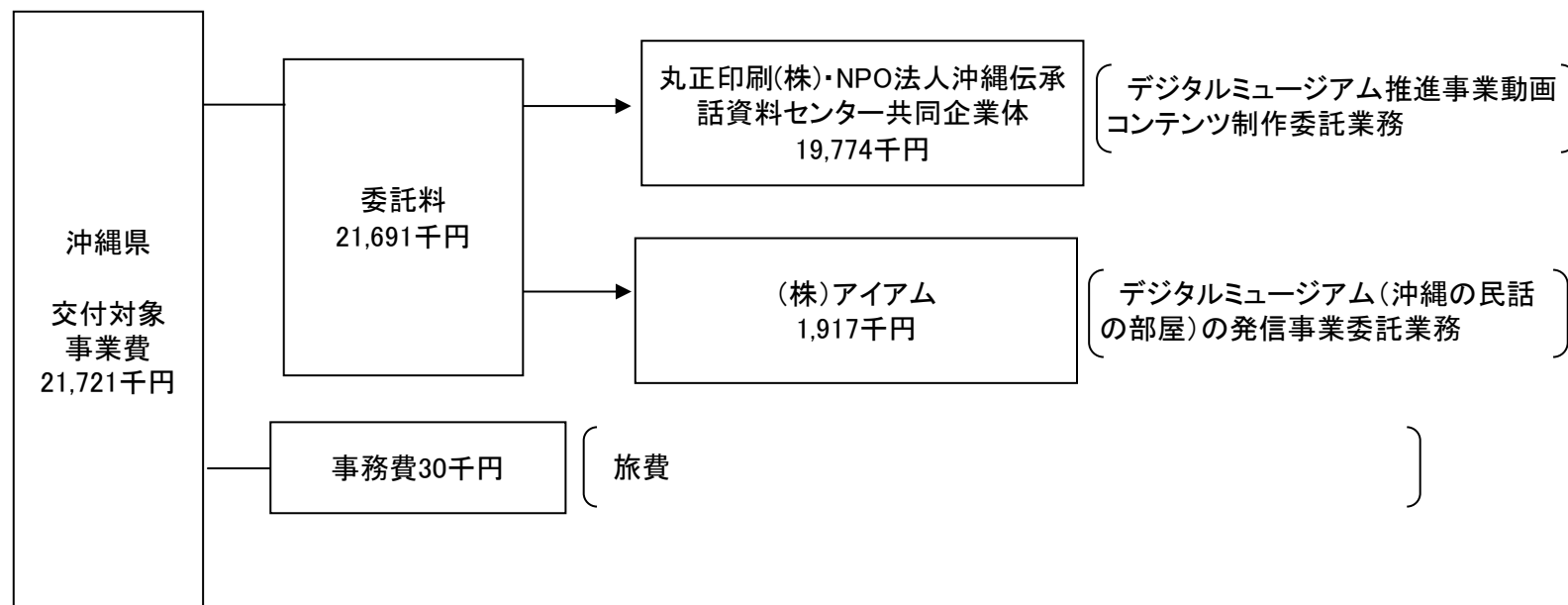
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①小学生対象夏休み学芸員教室のアンケートでは、民話を面白く感じ、興味を持ったという回答がある一方、興味が湧かなかったという回答がみられた。 ②民話上映会では学校や高齢者福祉施設でも動画コンテンツを上映して欲しいとの要望が寄せられた。 ③新型コロナウイルスの影響が深刻化した3月末にはデジタル民話ミュージアムへのアクセス数が増加した。 ④デジタル民話ミュージアム利用者からは、当該ページの配置場所が分かりづらいとの意見があった。	①子どもに分かりやすい動画コンテンツ作りのために、しまくとぅばだけでなく、民話そのものが持つ文化の豊かさを伝える必要がある。 ②学校や福祉施設、地域の施設等へ当事業を周知し、上映機会を確保する必要がある。 ③引き続き、オンラインによる学芸サービスの充実を推進する必要がある。 ④さらに多くの人々がデジタル民話ミュージアムへアクセスし、視聴するよう、当館ホームページのトップページにバナーを設置するなど画面構成を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

- ①動画コンテンツの作成では、イラストや映像効果の工夫、テロップの大きさ、ナレーションに配慮することで民話の持つ文化の豊かさが伝わるように工夫する。
- ②動画コンテンツを通じて民話やしまくとぅばにふれる機会を増やすために、上映会の実施回数を増やすとともに、学芸員による民話解説を行う等、民話及び「しまくとぅば」に対する理解・関心が高まる取組を実施する。
- ③学校や地域での上映のため、教員や福祉施設、公民館担当者等への周知や連携を強化する。
- ④当館ホームページの画面構成を分かりやすいものにし、SNSを活用して季節に応じた動画コンテンツを適宜紹介することで、デジタル民話ミュージアムへの訪問者増加を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
21,721	21,721	17,377	4,344	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費用 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、プロポーザル方式により適正に選定した。 ○費目・使途については、額の確定時において支出関係書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

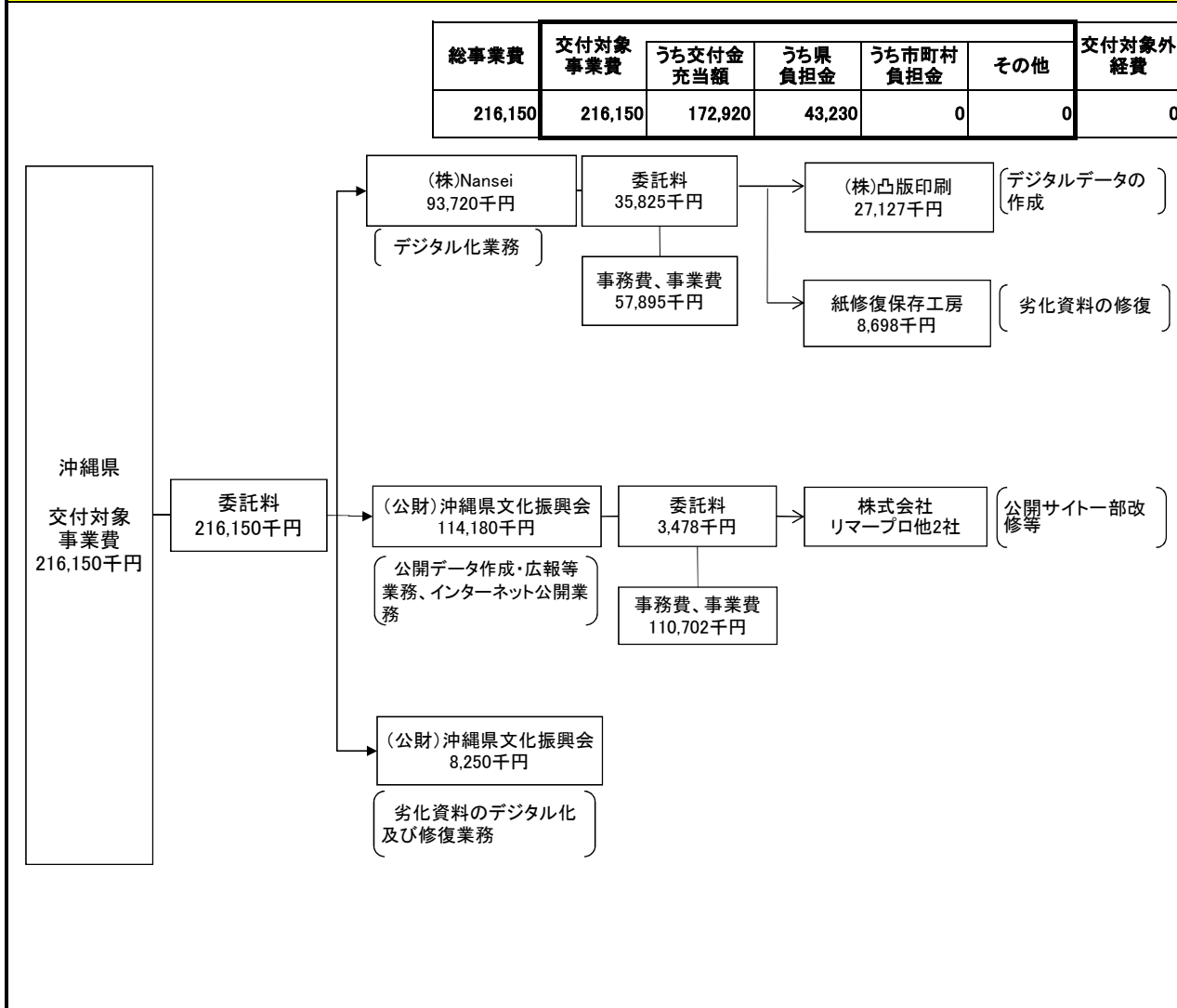
事業番号・事業名	2 琉球政府文書デジタル・アーカイブズ推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	総務部総務私学課	事業実施(予定)年度	H25 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民等が琉球政府文書に対する理解を深めるため、琉球政府の紙文書・資料(劣化の激しい資料は、デジタル化の前に修復)をデジタル化し、ホームページで公開する。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(令和 年度)						
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	130,425	—	117,385	—	216,437
		(b) 予算現額	130,425	—	117,385	—	216,437
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		130,425	—	117,385	—	216,437
	B. 執行済額		128,857	—	117,338	—	216,150
	うち交付金充当額		103,085	—	93,870	—	172,920
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		98.8%	—	100.0%	—	100%
予算の状況の説明		<p>・令和元年度予算は、事業実施に係る委託料の経費を計上したところであり、平成30年度に比べ99,052千円増額となっているのは、デジタル資料をホームページに掲載するために行う利用制限審査資料数を増やしたことによるものである。</p> <p>・執行率は100%であり、計画的に執行できた。</p>					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
	デジタル・データの作成	目標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		実績	17,280簿冊	11,000簿冊	9,000簿冊	11,000簿冊	
	個人情報の確認・マスキング	目標	8,000簿冊	6,000簿冊	6,000簿冊	22,500簿冊	
		実績	8,318簿冊	8,557簿冊	8,513簿冊	33,031簿冊	
達成状況説明	<p>・デジタル・データの作成は、事業の進捗を定期的に確認し目標値を達成した。</p> <p>・簿冊に含まれる個人情報の確認とマスキング処理についても、目標値を達成した。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H25年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	①公開したホームページの年間アクセス数	目標	—	12,000アクセス	26,000アクセス	29,000アクセス	—
		実績	—	32,059アクセス	24,267アクセス	41,531アクセス	—
	②琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する	目標	—	—	80%	80%	—
		実績	—	—	90%	75%	—
進捗状況説明	<p>①年間アクセス数は41,531アクセスであり、目標を達成した。今後も、わかりやすい資料掲載に努め、公開資料の多様な利用を促進する工夫を検討していく。</p> <p>②琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)をアンケートで検証し、理解が深まったと回答した者が75%となり、目標を達成できなかった。引き続き、利便性向上やニーズの把握に努める。</p>						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証 ①・資料のデジタル画像の質が悪い場合は公開データに適さない場合もあり、再撮影や撮影要件の調整が必要であるため、最終的に保管・公開を行うこととなる公文書館指定管理者と連携していく必要がある。 ②インターネットの普及に伴い、遠隔からの資料閲覧の利便性向上が求められることから、引き続き、掲載資料の充実を図り、多様なニーズに対応した資料公開を行う必要がある。	①デジタル画像については、利用者の利便性を考慮した画質(解像度、色調や形状等)となるよう、事業契約の仕様書で明記し、公文書館指定管理者と連携して保管・公開を行う必要がある。 ②掲載資料の資料解説を充実させる等により、公開資料の多様な利用を促進する工夫を要する。

今後の取り組み方針

- ①効率的に業務を推進するため、進捗に合わせた撮影対象簿冊の選定や簿冊の形態により異なる撮影方法等について、県、事業受託者及び公文書館指定管理者間での確認体制の検討を行う。
- ②公開する資料等については、わかりやすい資料紹介を充実させる等により、多様な利用を促進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や、実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	237	「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育庁生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	R1 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	(1)移民ルーツ調査関連 移民者からのルーツに関わる調査相談を解決することで、郷土愛を育むため、移民関連の資料収集及び講演会、移民ルーツ調査を行う。 (2)講演会・企画展関連 沖縄の歴史・文化に関心がある人の理解を深め、沖縄の魅力を発信する人材の育成を図るため、郷土資料企画展、展示関連講演会を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額					19,142
		(b)予算現額					19,142
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A.計(b+d)	0	0	0	0	19,142
	B.執行済額						14,860
	うち交付金充当額						11,887
	C.次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	77.6%
予算の状況の説明		沖縄県独自の歴史・文化を継承し、国際的に発信するために、R1年度から新規事業として、移民ルーツ調査の実施等に要する経費として、委託料等を計上した。執行率は77.6%であり、事業の推進に必要な適切な人員の確保に時間を要したため、報酬等の不用が発生したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(移民ルーツ調査関連) 移民ルーツ調査の実施	目標	-	-	-	300件	
		実績	-	-	-	451件	
	(移民ルーツ調査関連) 移民資料の収集	目標	-	-	-	450点	
		実績	-	-	-	458点	
	(移民ルーツ調査関連) 移民関連講演会の実施	目標	-	-	-	1回	
		実績	-	-	-	1回	
	(講演会・企画展示関連) 沖縄の歴史・文化関連郷土資料企画展示の実施	目標	-	-	-	18回	
		実績	-	-	-	40回	
(講演会・企画展示関連) 沖縄の歴史・文化関連講演会の実施	目標	-	-	-	12回		
	実績	-	-	-	4回		
達成状況説明	移民ルーツ調査、移民資料の収集、移民関連講演会については、目標を達成した。 講演会・企画展示関連については、競争入札を行ったが落札されなかったため、仕様を変更し(講演会の回数削減等)委託した。郷土資料企画展示については、40回(委託12回、自主企画28回)開催し、目標を達成した。講演会については、委託業務仕様の変更及び新型コロナウイルス感染症防止のため、講演会が一部実施できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(〇〇年度)
	(移民ルーツ調査関連) 移民ルーツ調査相談者を対象に、沖縄への愛着を感じたか(80%以上)等を含め、当該事業の在り方をアンケートにより検証する。	目標	-	-	-	80%	-
		実績	-	-	-	94%	-
	(講演会・企画展示関連) 講演会参加者、企画展来訪者を対象に、沖縄の歴史・文化への理解が深まり、沖縄の魅力を発信したいと思ったか(80%以上)等を含め、当該事業の在り方をアンケートにより検証する。	目標	-	-	-	80%	-
		実績	-	-	-	94%	-
	進捗状況説明	成果目標である移民ルーツ調査相談者を対象に沖縄への愛着を感じたかについては、94%が回答し、目標を達成した。 成果目標である講演会参加者、企画展来訪者を対象に、沖縄の歴史・文化への理解が深まり、沖縄の魅力を発信したいと思ったかについては、94%が回答し、目標を達成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・成果目標である移民ルーツ調査相談者を対象とした「沖縄への愛着を感じたか」のアンケートについて、R1年度は主に移民資料収集先であるハワイ及びペルーの県系人が調査相談者であった。R2年度は、アメリカ本土・カナダを対象に実施予定であり、それらの地域の県系人についても利用の促進を図る必要がある。</p> <p>・成果目標である講演会参加者、企画展来訪者を対象とした、「沖縄の歴史・文化への理解が深まり、沖縄の魅力を発信したいと思ったか」のアンケートについて、R1年度は「首里城」や「空手」、「組踊」など展示・講演会により40分野を発信したが、R2年度は、前年度に扱わなかったテーマも発信し、様々な観点から沖縄の歴史・文化の多様性を発信する必要がある。</p>	<p>・移民ルーツ調査関連については、更なる移民ルーツ調査の利用を促進するため、県系人への周知を強化する必要がある。</p> <p>・講演会・企画展示関連については、更なる来館者数の増加を図るため、R1年度参加者のアンケート等を元にニーズの把握・分析を行う必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>・県系人への周知などを強化するため、対象地域の県人会等とより綿密に連絡を取り、事前調整を行う。</p> <p>・アンケート結果を元に参加者の関心が高いテーマを取り入れて、講演会・企画展示の内容の充実を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,860	14,860	11,887	2,973	0	0	0


```

graph LR
    A[沖縄県 交付対象事業費 14,860千円] --> B[委託料 6,002千円]
    A --> C[報酬 5,289千円 共済費 869千円]
    A --> D[旅費 2,314千円]
    A --> E[事務費 386千円]
    
    B --> F[沖縄タイムス 5,661千円 [展示、講演会等]]
    B --> G[Nansei 341千円 [複製本作製]]
    
    F --> H[委託料 110千円]
    F --> I[事務費、事業費 5,551千円]
    
    H --> J[映像制作 琉EIZO 110千円 [講演会撮影等]]
    
    C --- K["(移民ルーツ調査、資料整理等に係る非常勤職員(奉仕員2名、事務補助員2名)報酬、社会保険料など)"]
    D --- L["(移民ルーツ調査及び資料収集に係る旅費(ペルー、ハワイ)非常勤職員(奉仕員2名、事務補助員2名)の通勤手当)"]
    E --- M["(報償費、需用費、役務費、備品購入費)"]
    
```

資金の流 れ、費 目、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、一般競争入札によって選定したため、妥当であったと考える。 ○費用、用途については、事業報告書等を検査し、適正であることを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

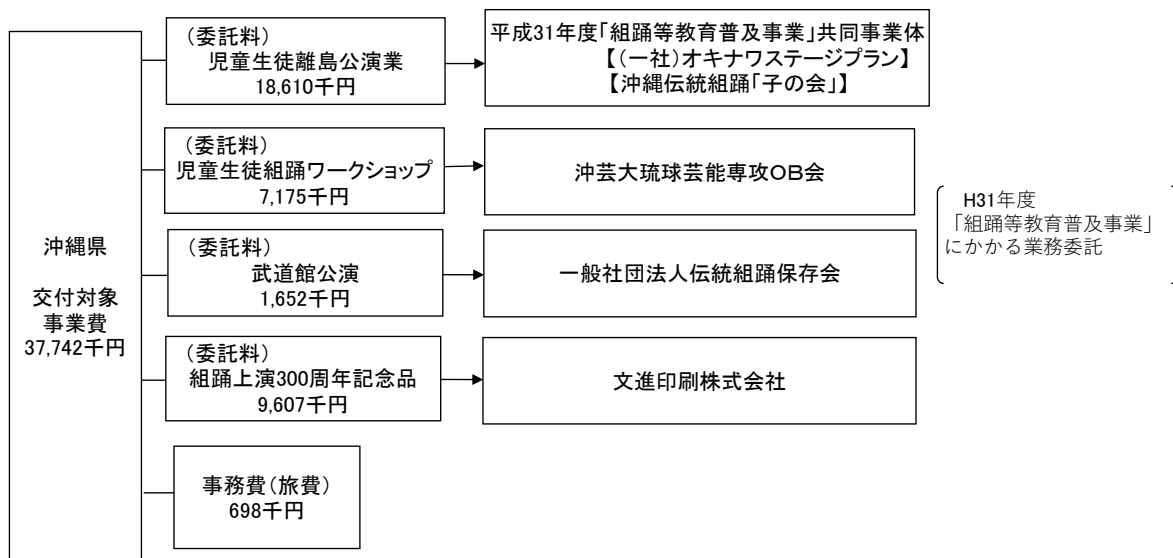
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	239-01 組踊等教育普及事業(組踊等の教育普及)	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア				
担当部課名	教育庁文化財課	事業実施(予定)年度	H26 ~ R2 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖繩の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	離島地域における児童生徒の伝統芸能への理解を深めるため、離島地域の学校において、解説書を活用した事前学習やワークショップによる体験学習を行うとともに、組踊等の公演を鑑賞する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,605		15,000		37,839
		(b) 予算現額	7,605		15,000		37,839
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		7,605	0	15,000	0	37,839
	B. 執行済額		7,605		14,927		37,742
	うち交付金充当額		6,084		11,942		
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	99.5%	#DIV/0!	99.7%
予算の状況の説明		執行率は99.7%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・児童生徒対象の組踊普及公演(鑑賞会)実施6回程度	目標	7回	2回	5回	6回	
		実績	8回	2回	6回	7回	
	・県内の20校程度の学校において組踊等のワークショップの実施	目標	-	-	-	20回	
		実績	-	-	-	20回	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 組踊公演を離島で6回(鳩間小中学校、石垣市民会館(宮良小学校、石垣中学校ほか7校)、粟国小中学校、久米島町(清水小学校、球美中学校ほか2校)、宮古特別支援学校(狩俣小学校、西辺中学校)、伊江島(伊江小学校、ほか2校))、県立武道館で1回(11月9日)実施した 組踊ワークショップを20校で実施した。 組踊上演300周年記念品を全児童生徒に配布した。(小学生下敷き、中高生クリアファイル) 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(〇〇年度)
	・ワークショップや公演の鑑賞により組踊等の沖縄伝統芸能に関する理解を深めた児童生徒の割合80%以上	目標	-	70%	80%	80%	-
		実績	-	88%	92%	84%	-
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の鑑賞生徒数は鳩間小中学校8名、石垣市民会館716名、粟国小中学校43名、久米島314名、宮古島61名、伊江島157名、県立武道館公演の鑑賞者は約300名、合計1,599名。組踊ワークショップ20校で2,232名参加。 アンケート調査によると、児童生徒離島公演では1,112名(85.6%)、組踊ワークショップでは1,828名(84%)の児童生徒が組踊の内容が理解できたと回答している。県立武道館公演において、「劇場とは異なり、小さな子どもを連れて気軽に見ることができた」と、多くの世代に鑑賞の機会を与えることができた。 					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞校については、年度ごとに募集、選定しているため、応募校数に変動がある。また、その開催校の規模によって鑑賞する児童生徒の総数が増減する。 低学年の児童において、言葉の理解が難しいようである。 組踊公演とは異なる組踊ワークショップを、学校現場等に周知する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 合同鑑賞会の開催や一日あたりの上演回数を増やす等の取り組みにより、1公演の鑑賞者数の増加を図る必要がある。 低学年の児童でも理解しやすい字幕の表現を研究する。 組踊ワークショップの教育的効果について、学校現場等に周知をする。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 複数校での合同鑑賞会開催が円滑に実施できるよう、市町村教育委員会等と連携を図る。 委託業者と低学年の児童でも理解しやすい字幕の表現を研究する。 ワークショップの効果について理解と周知を図り、関係市町村教育委員会や開催校と実施に向けての日程調整を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
37,742	37,742	30,193	7,549	0	0	0



資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により組織、実績、知識等を勘案した上で選定し、適切な事業が実施された。 ○委託事業者からの実績報告及び、支出の費目、使途を確認し、その内容から予算が適正に執行されていた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

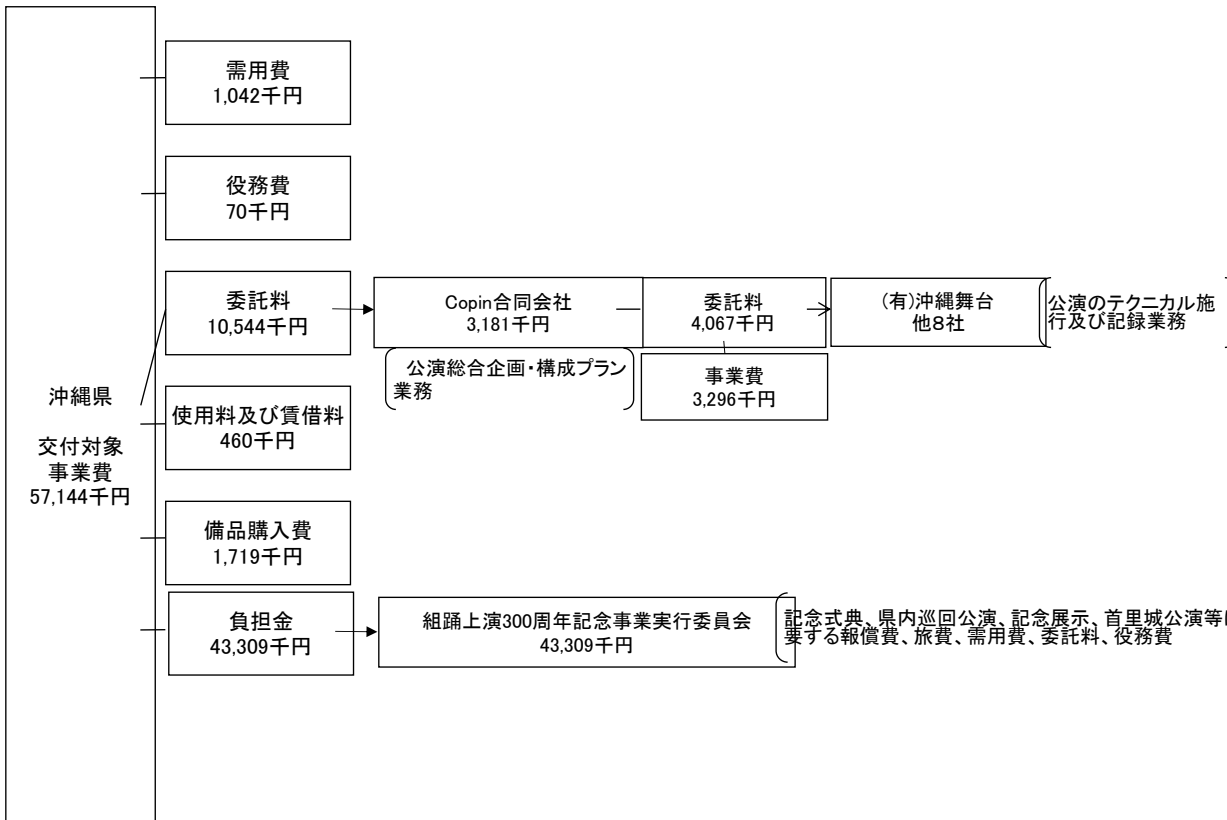
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	239-02	組踊等教育普及事業（組踊上演300周年記念事業）	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア				
担当部課名	文化振興スポーツ部 文化振興課、県立芸大	事業実施（予定）年度	R1 ~ R1 年度	沖縄振興基本方針該当箇所				
事業内容	県民の組踊への関心、認知度を高めるため、組踊上演300周年記念公演等に対する支援、県立芸大組踊り・琉球舞踊公演を実施する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（ 年度）							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】			H29年度	H29年度（繰越）	H30年度	H30年度（繰越）	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額						48,700
		(b) 予算現額						59,700
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0	11,000
		(d) 前年度繰越額						
	A. 計 (b+d)		0	0	0	0	0	59,700
	B. 執行済額							57,144
	うち交付金充当額							11,068
	C. 次年度繰越額				0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	95.7%
予算の状況の説明		<p>・組踊上演300周年記念事業実行委員会への負担金のほか、芸大公演実施に要する委託料、備品購入費、広報用チラシ・ポスター、パンフレット等の需用費、会場等の使用料及び賃借料等の経費を計上した。</p> <p>・執行率は95.7%であり、当初見込みと実績との差異によるものである。</p>						
活動目標（指標）及び達成状況	R1活動目標（指標）		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・「組踊上演300周年記念事業」の開催（各種事業の実施）	目標				式典、展示、芸大5公演等		
		実績				式典、展示、芸大5公演等		
		目標						
		実績						
	目標							
	実績							
達成状況説明	「組踊上演300周年記念事業」は、予定していた5公演を開催し目標値を達成した。							
成果目標（指標）及び進捗状況	R1成果目標（指標）		基準値（H23年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（〇〇年度）	
	組踊の無関心層、否認知層の合計	目標	—			10.6%以下	—	
		実績	27.6%			26.8%	—	
		目標	—				—	
		実績	—				—	
		目標						
目標								
進捗状況説明	年間を通じた組踊上演300周年各種記念事業の実施により、県民へ組踊の関心・認知度を高め、次の100年へと継承していく足がかりとなった。成果目標としていた組踊の無関心層（聞いたことあるが内容知らない）と非認知層（知らない）の割合については、目標以下にすることができなかったが、基準年と比較して減少させることができた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	引き続き、組踊の無関心層や非認知層に訴求する取り組みを検討しなければならない。	組踊をはじめとする沖縄文化により一層親しみ、誇りをあらたにし、支える環境づくりにつなげる必要がある。
今後の取り組み方針		
県民が組踊をはじめとする沖縄文化により一層親しみ、沖縄文化に対する誇りをあらたにし、支える環境づくりにつなげることを目指す。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
57,144	57,144	45,715	11,429	0	0	0



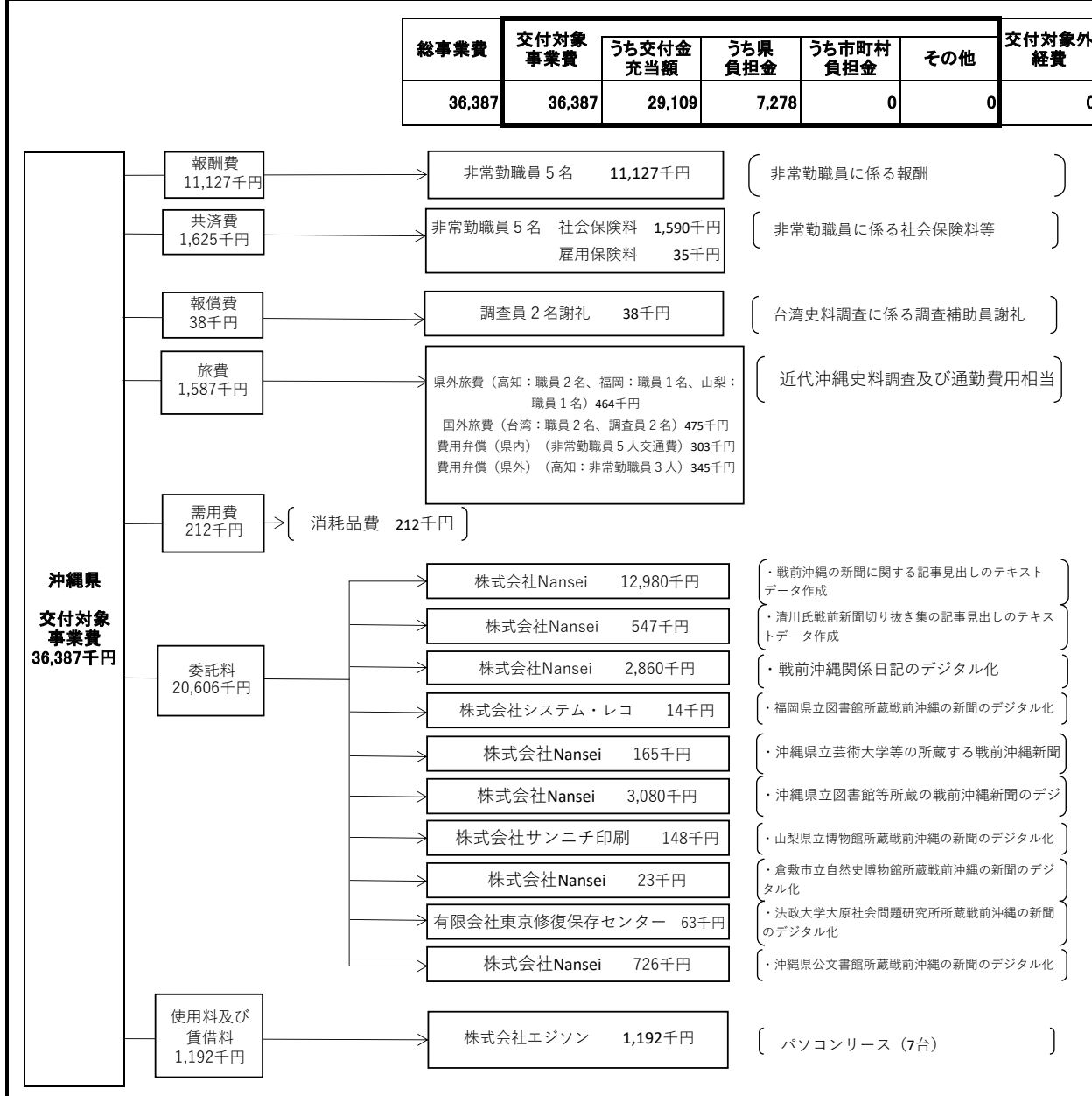
用途の流れ、費目・点検項目	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、プロポーザル方式により適正に選定した。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定時において支出関係書類により適正である事を確認した。
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	241	近代沖縄史料デジタル化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	教育庁文化財課	事業実施(予定)年度	H28 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖繩の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)			
事業内容	県民の近代沖縄に対する理解を深めるため、沖縄戦で焼失した近代沖縄の史料の収集とデジタル複製による保存、インターネット公開を行う。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	28,093		21,533		42,804	
		(b)予算現額	28,093		21,533		42,804	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d)前年度繰越額						
		A.計(b+d)	28,093	0	21,533	0	42,804	
	B.執行済額		27,745		21,257		36,387	
	うち交付金充当額		22,196		17,005		29,109	
	C.次年度繰越額				0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		98.8%	#DIV/0!	98.7%	#DIV/0!	85.0%	
予算の状況の説明		執行率は85.0%であり、主に委託料の入札残、費用弁償特別旅費の執行残が発生したことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	近代沖縄史料のデジタル複製の調整・実施および新聞記事見出しのテキスト化等を行う。		目標	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施	
			実績	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施	デジタル複製の調整・実施	
達成状況説明		・近代沖縄史料のデジタル複製について、沖縄県立図書館など県内外の所蔵機関(11機関)と調整を行い、実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)	
	県内所蔵機関等の新聞資料のデジタル化		目標	-	12,000面	8,000面	2,700面	-
			実績	-	19,000面	8,100面	4,293面	-
	戦前沖縄の新聞記事見出しのテキスト化		目標	-	-	-	13,000面	-
			実績	-	-	-	12,317面	-
	【R3年度成果目標】開設したホームページへのアクセス件数		目標	-	-	-	-	5,300件
	【R3年度成果目標】閲覧者について、近代沖縄に対する理解が深まったとする割合		目標	-	-	-	-	80%
進捗状況説明		・戦前の新聞のデジタル化は、切り抜き集の頁数が想定よりも多かったため成果目標を大きく上回った。 ・記事見出しのテキスト化は、当初対象とした資料の一部にすでにテキスト化が完了しているものがあることが判明し、対象資料の減が生じたため、成果目標の達成に届かなかった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①これまでに作成した大量の画像データや記事見出しのテキストデータをウェブ公開に向けて整理する必要がある。	①作成した記事見出しが、どの画像データの紙面に掲載されているか効率良く関連付ける必要がある。 ②不名誉な事件・事故等の個人情報のマスキングを行う必要がある。 ③新聞画像のインターネット公開に向け、著作権処理を行う必要がある。
	②ウェブ公開により不名誉な事件・事故などに記載された個人情報が、不特定多数にさらされることとなり、関係者の不利益が想定される。 ③著作権の保護期間内にある記事や作品がある。	
今後の取り組み方針		
①新聞の発行年月日・面数をもとにファイル名を付与した画像データと、記事見出しの年月日・面数のテキストデータを一致させることで効率よく紐付けを行う。 ②記事内容を確認し、不名誉な事件・事故等の個人情報をマスキングした画像データを作成する。 ③著作者不明の著作物の使用について文化庁長官裁定制度への申請を行う。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は一般競争入札(3件)および随意契約(7件)で選定した。業務の特殊性・専門性の高さおよび委託金額もふまえ、各々妥当であったと考えている。 ○費目・用途については、事業目的に即しており、額についても支出などに関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

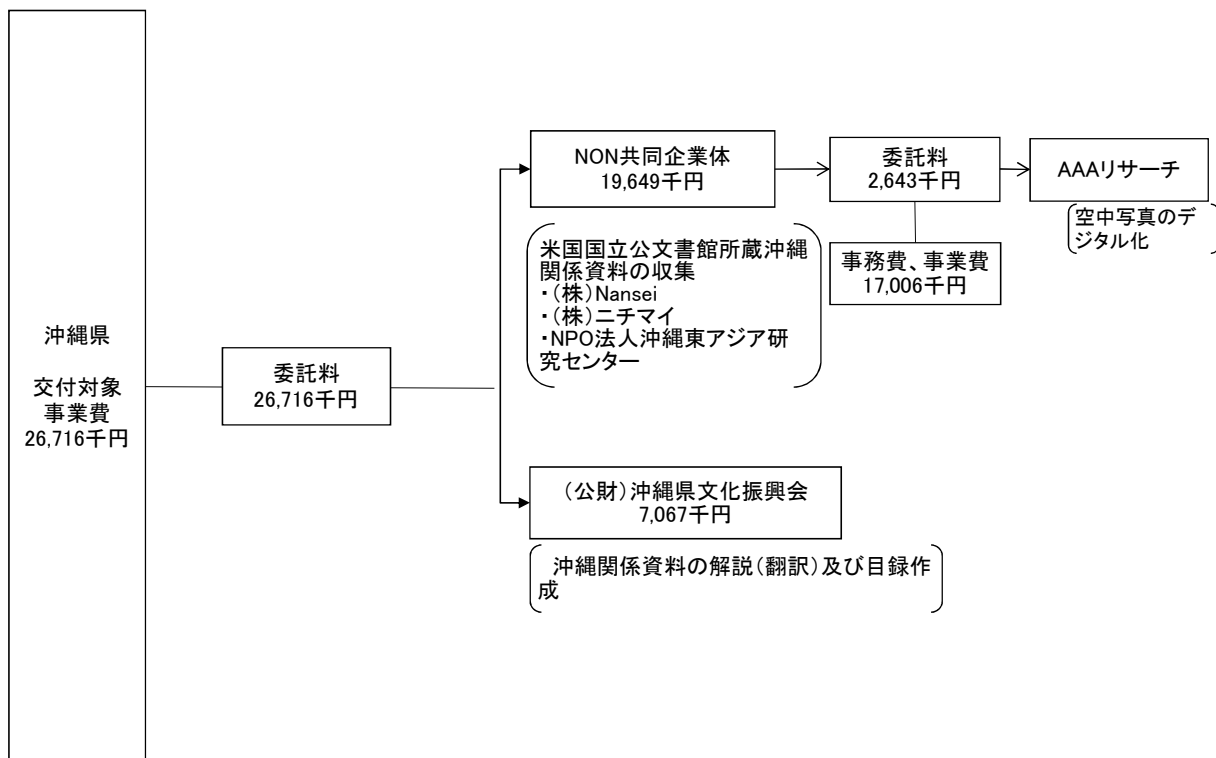
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3 在米沖縄関係資料収集公開事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	総務部総務私学課	事業実施 (予定)年度	H29 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民等が沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解を深めるため、米国国立公文書館に所蔵されている沖縄関係の資料(写真や動画を含む)を収集し、翻訳・整理を行い、県民等の利用に供する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	18,325	—	13,878	—	27,756
		(b) 予算現額	18,325	—	13,878	—	27,756
		(c) 増減額(b-a)	—	—	—	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	18,325	—	13,878	—	27,756
	B. 執行済額		16,515	—	13,867	—	26,716
		うち交付金充当額	13,212	—	11,093	—	21,373
		C. 次年度繰越額	0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		90.1%	—	99.9%	—	100.0%
予算の状況の説明	<p>・県民等が沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解を深めるため、米国国立公文書館から写真等資料の収集及びインターネット公開のための目録作成に要する経費として委託料を計上した。</p> <p>・執行率は100%であり、計画的に執行できた。</p>						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	対象資料(写真や動画を含む)の収集		目標	—	—	6,300点	6,095点
			実績	—	—	6,314点	6,260点
達成状況説明	・写真等の収集については、事業の進捗を定期的に確認し目標値を達成した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (H25年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (R3年度)
	対象資料(写真や動画を含む)の収集、翻訳整理の実施	目標	—	—	収集、整理する	収集、整理する	—
		実績	—	—	収集、整理した	収集、整理した	—
	【R3成果目標】 公開したホームページの年間アクセス件数	目標					219,000PV
	【R3成果目標】 沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する	目標					80%
進捗状況説明	・沖縄戦及び戦後の米国統治に関する写真等6,260点をデジタル化して収集し、7,900点の目録・翻訳整理を行い、目標を達成した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証 ①米国国立公文書館の資料貸出申請の制限を考慮し、利用者ニーズの高い資料を優先的に収集する等、最終的に収集資料を運用することとなる公文書館指定管理者の公開基準に合わせる必要があるため、県、事業受託者及び指定管理者との連携が必要である。 ②インターネット公開に向け、引き続き利用者のニーズの把握に努めるとともに、資料のわかりやすい翻訳や解説の充実と、閲覧しやすい資料掲載方法を確認する必要がある。	①資料が計画どおり収集できるよう 米国国立公文書館の資料貸出及び利用環境の確認を行う等情報収集し共有を徹底し、事業を推進する必要がある。 ②資料の解説(翻訳)については、資料閲覧状況や利用者アンケートを参考に分析するなど、理解促進につながるものとする必要がある。また、資料の公開にあたり、公文書館ホームページの具体的な改修内容や広報等周知方法について引き続き検討する必要がある。
今後の取り組み方針	
①事業の実施にあたり、公開に向けた写真・動画の収集・解説(翻訳)作成等に関する課題を共有し、対応策について協議するため、引き続き県、事業受託者及び公文書館指定管理者との協力体制の構築を図る。 ②資料の公開に向け、利用拡大を図るためのホームページ改修や、県民等への周知手法の検討を行う。	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
26,716	26,716	21,373	5,343	0	0	0



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や、実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
-		受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。
○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	197	沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ 第3章-1-(5)-ア		
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R2 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)		
事業内容	文化芸術活動の持続的発展を図るため、地域の伝統芸能など文化芸術活動に対して補助を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和3年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	108,965		105,935		106,500
		(b) 予算現額	100,827		105,935		106,500
		(c) 増減額(b-a)	▲ 8,138	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	100,827	0	105,935	0	106,500
	B. 執行済額		97,381		102,185		99,972
	うち交付金充当額		77,905		81,748		79,978
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.6%	#DIV/0!	96.5%	#DIV/0!	93.9%
予算の状況の説明		・予算額は旅費、委託料、補助金を計上。 ・執行率は93.9%であり、主に補助金の執行残が生じたことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	県内文化芸術活動の補助件数		目標	-	-	18件	19件
			実績	-	16件	19件	21件
達成状況説明	・県内文化関係団体を対象に、公募の上、①文化関係団体の運営上の課題解決の取組 8件、②文化芸術の普及及び魅力発信の取組、5件③文化資源を活用した地域活力創出の取組 8件 合計21件を採択した。 ・採択された取組について、補助を行うとともに(公財)沖縄県文化振興会における文化の専門人材によるハンズオン支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(〇〇年度)
	①文化芸術活動数が前年度より増加した団体の割合	目標	-	-	37.5%	37.5%	-
		実績	-	-	57.9%	41.2%	-
	②文化芸術活動による享受者数が前年度より増加した団体の割合	目標	-	-	37.5%	37.5%	-
		実績	-	-	84.2%	23.5%	-
	③文化芸術活動と他分野が連携した活動数が前年度より増加した団体の割合	目標	-	-	25.0%	25.0%	-
		実績	-	-	73.7%	41.1%	-
	【R3成果目標】 1. H30に補助を開始した団体について、補助終了翌年度において、前年度の文化芸術活動数を維持している団体		目標				40%
	【R3成果目標】 2. H30に補助を開始した団体について、補助終了翌年度において前年度の享受者数を維持している団体		目標				40%
	【R3成果目標】 3. H30に補助を開始した団体について、補助終了翌年度において、前年度の他分野との連携した活動数を維持している団体		目標				40%
進捗状況説明	令和元年度に採択された21団体中、新規採択4団体を除く17団体を母数とする文化芸術活動数が前年度より増加した団体が7団体、文化芸術活動による享受者数が前年度より増加した団体が4団体、文化芸術活動と他分野が連携した活動数が前年度より増加した団体は8団体となった。17団体中、補助最終年度において取り組み内容にイベント等を含む団体が少なくなったため、②の目標については達成できなかった。						

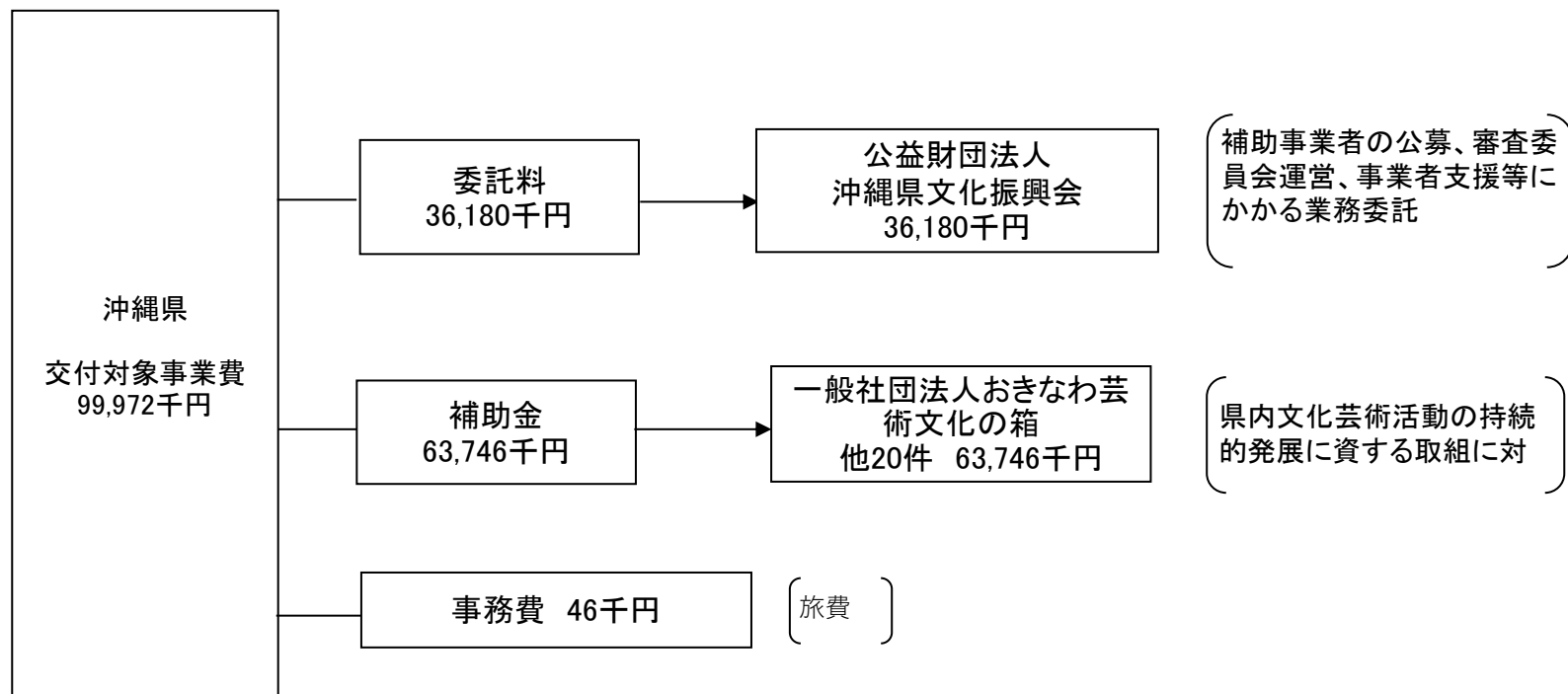
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①令和元年度は、補助終了最終年度の団体が多いため、令和2年度以降も事業の周知を図っていく必要がある ②令和元年度は新型コロナウイルス等の影響により、各補助事業の取り組みで一部取り組みができなかったものがあった。	①本事業の事例集を発行し、ホームページに掲載するなど、効果的な事業の周知を行う必要がある。 ②新型コロナウイルス等の状況を適切に把握し、採択された事業の執行管理を丁寧に行う必要がある。

今後の取り組み方針

①本事業の事例集を発行し、委託先のホームページ等へ掲載し、効果的な周知を行う。
 ②当初の公募申請内容から、新型コロナウイルスの影響により、事業内容を再検討してもらい再度応募してもらうこととする。(例:海外イベントへの参加の除外等)また、委託先と連携し、新型コロナウイルスの影響下でも事業の進捗遅れがないよう、適切な執行管理を行う。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
99,972	99,972	79,978	19,994	0	0	



資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公益財団法人沖縄県文化振興会は、他の文化関係機関との連携も視野にいれて県の文化行政施策を実行できる唯一の団体であり、選定は妥当であったと考える。 ○受益者負担については交付要綱で補助率1年目9/10、2年目8/10、3年目7/10と定めており、妥当と判断している。 ○費目・使途については事業を円滑に遂行するために必要な経費であったかを支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

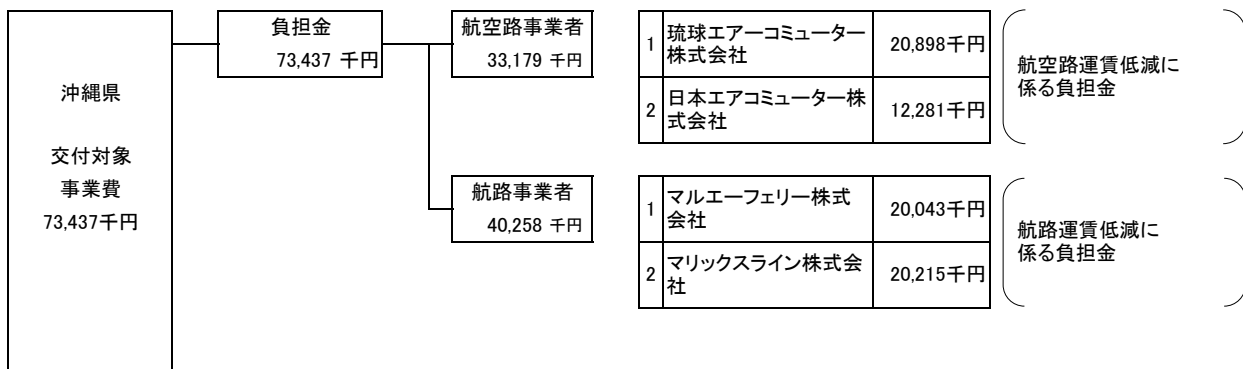
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	19	沖縄・奄美連携交流促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	企画部地域・離島課	事業実施(予定)年度	H28 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の発信・交流 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	世界自然遺産登録の候補地として一体的に評価されていることを契機に、両地域間の移動しやすい環境を構築し、両地域の交流を促すため、沖縄～奄美群島間において、陸上交通と比べて割高な航空路運賃及び航路運賃の低減を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】			H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	83,573		111,418		98,786
		(b) 予算現額	84,973		91,714		98,786
		(c) 増減額(b-a)	1,400	0	▲ 19,704	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	84,973	0	91,714	0	98,786
	B. 執行済額		82,953		81,765		73,437
	うち交付金充当額		66,362		65,412		58,750
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.6%	#DIV/0!	89.2%	#DIV/0!	74.3%
予算の状況の説明		・予算額は、沖縄～奄美間の航空路及び航路の運賃低減に係る事業者への負担金、事務費(旅費)を計上した。 ・執行率は74.3%であり、運賃低減の実績に応じて支出する負担金の実績確定に伴う不用額(25,205千円)が発生したこと等によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	運賃を低減した路線における利用者数 航空路 約30,500人	目標	16,700人	22,000人	30,000人	30,500人	
		実績	16,551人	22,637人	20,496人	21,396人	
	運賃を低減した路線における利用者数 航路 約70,400人	目標	45,700人	70,000人	70,000人	70,400人	
実績		50,234人	67,056人	55,362人	52,177人		
達成状況説明	・航空路は那覇と奄美群島を結ぶ4路線、航路においては那覇(本部)から奄美群島を結ぶ8航路で事業を実施し運賃低減を実現した。 ・令和元年度は、旅客数ピーク時における台風での欠航により、低減した運賃の利用者数は、航空路21,396人(対目標70.2%)、航路52,177人(対目標74.1%)と目標を達成することができなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H26年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R1年度)
	両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数(住民を含めた交流人口) 航空路及び航路 135,400人	目標	98,623人	105,100人	108,400人	135,400人	—
		実績	—	128,986人	135,849人	136,350人	—
	進捗状況説明	・航空路及び航路において、令和元年度における両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数の実績は136,350人で、目標の135,400人を上回り、住民を含めた交流人口が順調に増加している。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・平成30年度の事後評価や新型コロナウイルスの影響等を踏まえ、本事業の事業効果及び旅行者の実態を検証し、今後の事業のあり方について検討を行うことが適当。</p>	<p>・継続して、本事業により沖縄一奄美間において移動しやすい環境を確保するとともに世界自然遺産登録に向け、交流を促進するため、関係者との協力体制のもと、本事業を周知する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・本事業の事業効果及び旅行者の実態を検証し、今後の事業のあり方について検討するため委託調査を実施するとともに、両地域間の更なる交流促進のため、交通事業者の協力を得ながら、本事業の広報を実施する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
73,437	73,437	58,750	14,687	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○負担金について、事業者に対し、運賃低減に係る減収分を適正に交付した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

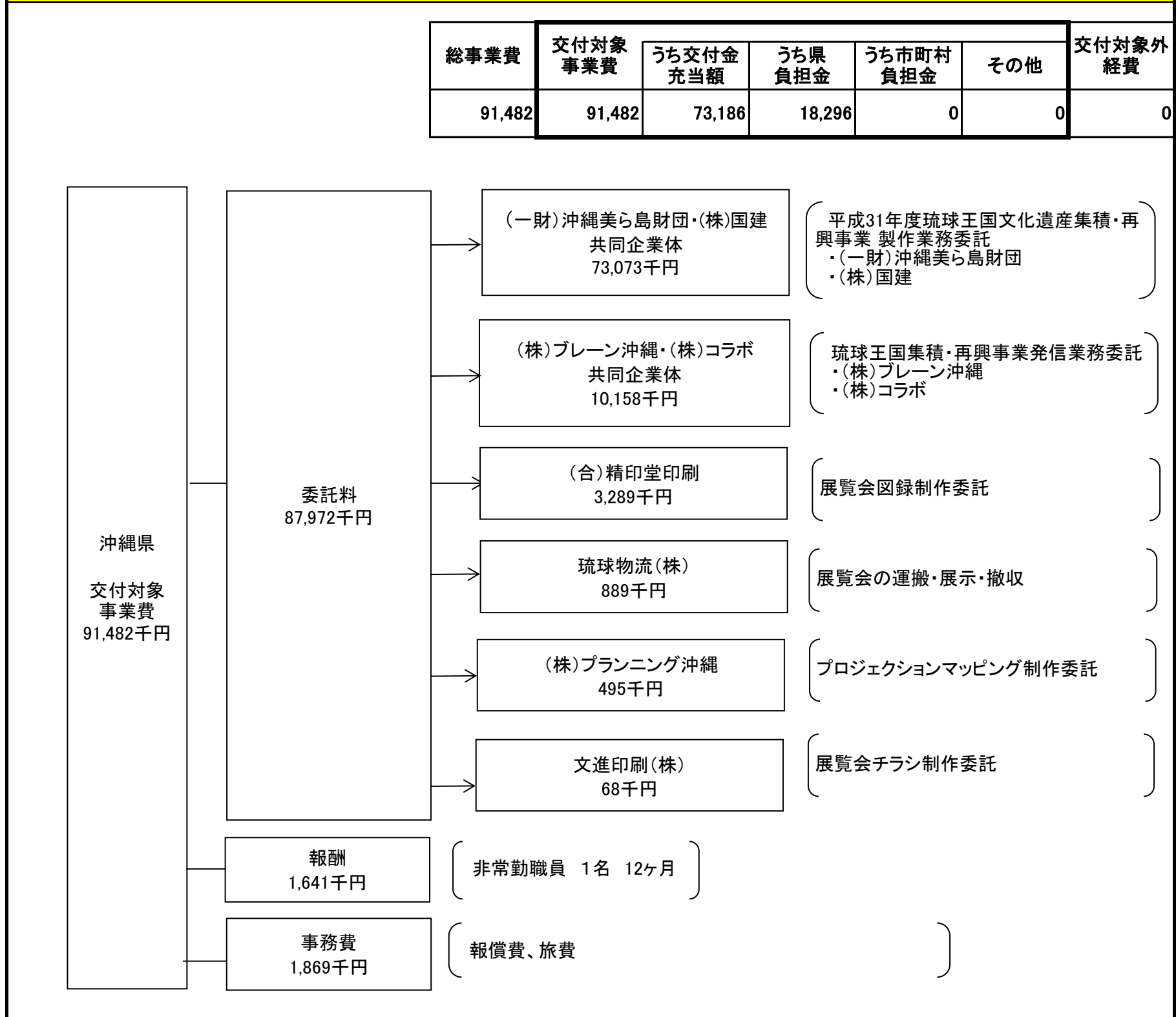
事業番号・事業名	198	琉球王国文化遺産集積・再興事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア 第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課 (博物館・美術館)	事業実施 (予定)年度	H27 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所			
事業内容	県民等に琉球王国文化の周知を図るため、琉球王国の崩壊や先の大戦で破壊された文化財の模造復元品(物)と製作過程で得られた手わざと知見(技)を、琉球王国文化として、報告会及び展示公開等により発信する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和2年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	184,206	—	104,202	—	93,900
		(b) 予算現額	184,206	—	104,202	—	93,900
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額		—		—	
		A. 計(b+d)	184,206	—	104,202	—	93,900
	B. 執行済額		182,088	—	102,845	—	91,482
	うち交付金充当額		145,670	—	82,276	—	73,186
	C. 次年度繰越額			—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		98.9%	—	98.7%	—	97.4%
予算の状況の説明		・執行率は97.4%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	H30に完成した模造復元製作の報告会	目標	—	報告会開催 1回	報告会開催 1回	報告会開催 3回	
		実績	—	報告会開催 1回	報告会開催 1回	報告会開催 3回	
	模造復元製作(8分野)の工程に基づき製作業務の実施	目標	—	—	製作業務の実施	製作業務の実施	
		実績	—	—	製作業務を実施した	製作業務を実施した	
	H28~H30に完成した模造復元品及び復元作過程で得られた琉球王国時代の精緻な手わざに関する知見と美意識を発信する展示会の開催	目標	—	—	—	展示会の開催	
		実績	—	—	—	展示会を開催した	
	達成状況説明	・平成30年度の模造復元製作工程の記録及び知見に関する報告会を実施し、目標値を達成した。 ・模造復元製作(8分野)において、監修者会議を開催し目標の工程どおり復元製作することができた。 ・模造復元資料及び製作工程を紹介する展示会を開催した。					
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度
①模造復元品の報告会(H30完成品)の参加者 300人		目標	—	参加者数 80人	参加者数 100人	参加者数 300人	—
		実績	—	参加者数 100人	参加者数 150人	参加者数 471人	—
②展示会来場者数 3,500人		目標	—	—	—	来場者数 3,500人	—
		実績	—	—	—	来場者数 4,551人	—
【R2成果目標】 模造復元品の報告会(R1完成品)の参加者		目標					360人
【R2成果目標】 展示会来場者数		目標					3,200人
進捗状況説明		①過年度までの製作事業で完成した資料の復元に関する報告会(令和元年8月、9月、11月)を実施し、471人の参加者を集め、目標値を達成した。 ②模造復元資料及び手わざ(製作工程)を通して琉球王国時代の文化を紹介する展示会(令和2年2月4日~3月15日)を開催し、4,551人の来場者を集め、目標値を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・模造復元の製作はR2年度まで続き、こうした製作プロセスや技術の復元を伝えるため工夫した報告会や展覧会を実施する必要がある。 ・展覧会や報告会を開催するうえで、感染症対策を行い、来館者が安心して観覧できる環境をつくる必要がある。 ・引き続き、素材や技法に関する新たな課題に対応しながら、復元品製作を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会や報告会等、製作工程に合わせた効果的な発信方法を検討する必要がある。 ・ソーシャルディスタンスの確保、入場者の健康確認等により安心な展覧会会場作りを図る必要がある。 ・模造復元品の製作にあたり、完成度を高めるため、監修者と製作者の連携を強化するとともに、工程管理に万全を期す必要がある。

今後の取り組み方針

- ・事業の周知並びに王国文化の理解、活用の促進のため、製作の過程で得られた知見等を発表する展覧会等を引き続き行うが、感染症拡大防止を意識した取り組みにより巡回展や報告会等を実施する。
- ・復元品の完成度を上げるため、引き続き監修者会議により監修者の意見と製作者が綿密に連携しながら復元品の製作を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業は特命随意契約により選定し、随意契約理由は適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において支出関係書類により確認し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	200 沖縄県空手振興事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
				文化の発信・交流			
担当部課名	文化観光スポーツ部空手振興課	事業実施 (予定)年度	H29 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(2)		
事業内容	<p>沖縄空手の発展及び普及を図るため、</p> <p>①沖縄空手の流派が分かる多言語(英語、フランス語、スペイン語)の解説書を作成する。令和元年度は、「首里・泊手系(しょうりん流等)」の解説書作成に係る調査研究を実施する。</p> <p>②海外・国内に指導者を派遣する。</p> <p>③空手の日において演武祭を開催する。</p> <p>④沖縄空手に関する各種問合せに対応する案内センターを開設するとともに、県内町道場での稽古を希望する国内外の空手愛好家を当該町道場につなぐワンストップ機能を構築する。</p> <p>⑤沖縄空手会館を拠点とする沖縄空手の情報発信、国内外のメディア媒体、県内の世界的有名空手家の国内外物産展・旅行博等への派遣等、広報を実施する。</p> <p>⑥県内外の空手に関する新聞資料を収集・整理を行い、沖縄空手会館において新聞資料を公開する。</p> <p>⑦明治時代以降の学校教育を通じた空手の普及に関する企画展を開催する。</p> <p>⑧沖縄空手会館において、映像シアター、展示の多言語音声及び展示解説文の多言語リーフレットを整備する。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】	予算の状況		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度
		(a) 当初予算額	247,063		170,751		154,000
		(b) 予算現額	247,063		170,751		143,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 11,000
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	247,063	0	170,751	0	143,000
		B. 執行済額	230,536		163,297		128,289
		うち交付金充当額	184,429		130,638		102,631
		C. 次年度繰越額	0		0	0	0
		執行率(%) (B/A)	93.3%	#DIV/0!	95.6%	#DIV/0!	89.7%
予算の状況の説明	<p>・沖縄空手を振興するため、平成30年度から引き続き、空手関係イベントの開催等に必要な委託料等を計上した。</p> <p>・執行率は89.7%であり、委託料に執行残が発生したことによるものである。</p>						
R1活動目標(指標)	達成状況						
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	①各流派の調査、研究を行い、多言語(英語、フランス語、スペイン語)の解説書を作成	目標				調査研究の実施	
		実績				調査研究の実施	
	②沖縄伝統空手道振興会等の空手関係団体と連携し、海外指導者派遣(2か国)、国内指導者派遣(1都道府県)を行う。	目標				指導者派遣を実施	
		実績				海外2カ国、国内1地域	
③空手の日において演武祭を開催する。	目標				奉納演武、記念演武祭を実施		
	実績				奉納演武、記念演武祭を実施		

活動目標 (指標) 及び達成状況	④空手案内センターの運営	目 標					案内センターの運営を実施	
		実 績						案内センターの運営を実施
	⑤空手発祥の地沖縄としての認知度の向上を図る取り組みを行う。	目 標						認知度向上の取り組み
		実 績						認知度向上に取り組んだ
	⑥沖縄空手への理解を深めるため、県内外の新聞資料の収集・整理を行う。	目 標						新聞資料の収集・整理
		実 績						新聞資料の収集・整理を行った
	⑦沖縄空手に対する理解を深めるため、様々なテーマを取り上げた企画展を開催する。	目 標						企画展を開催
		実 績						企画展を開催した
	⑧沖縄空手の歴史・文化等の情報を世界に発信するため、多言語化を行う。	目 標						多言語化の実施
		実 績						多言語化を実施した
達成状況説明	<p>活動目標の細事業について、目標に沿った事業の実施を行った。</p> <p>①「首里・泊手系」の解説書作成に係る調査研究を実施し、その結果を中間報告書として取りまとめた。</p> <p>②空手指導者・継承者の育成、海外での伝統空手・古武道の普及啓発を目的に、沖縄空手の指導者等を海外2カ国、国内1地域に派遣した。</p> <p>③空手の日において奉納演武及び記念演武祭を実施し、「空手の日」及び「空手発祥の地・沖縄」を広く国内外に発信した。</p> <p>④沖縄空手に関する各種問合せに対応するとともに、国内外の空手愛好家に県内町道場を紹介した。</p> <p>⑤空手発祥の地沖縄としての認知度向上を図る取り組みとして、国内イベント8カ所に参加した。</p> <p>⑥沖縄空手への理解を深めるため、新聞記事594件を収集し公開、展示用パネル6部を作成した。</p> <p>⑦沖縄空手に対する理解を深めるため、企画展「空手を伝え、広める！ー近代の空手教師たち」を開催した。</p> <p>⑧沖縄空手の歴史・文化等の情報を世界に発信するため、展示解説文等の韓国語化を実施した。</p>							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (〇〇年度)	
	①首里・泊手系(しょうりん流等)の解説書の作成に必要な調査の完了	目 標	—				調査完了	—
		実 績	—				調査完了	—
	②派遣先で指導した者に対し、沖縄空手に対する認識が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	目 標	—				80%以上	—
		実 績	—				80.23%	—
	③空手の日記念演武祭参加者 2,400人	目 標	—				2400人	—
		実 績	—				2100人	—
	④-1空手案内センターの対応について、満足したか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目 標	—				①80%以上 ②646人	—
		実 績	—				①98.7% ②682人	—
	④-2空手案内センターを通じた町道場等への来訪者数 646人							
	⑤-1空手関係来訪者数 7,900人	目 標	—				①7,900人 ②34%	—
	⑤-2イベント開催都道府県における「空手発祥の地沖縄」の認知率 34.0%	実 績	—				①8,871人 ②34%	—
	⑥新聞資料利用者に対し、沖縄空手に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目 標	—				80%以上	—
		実 績	—				75%	—

	⑦-1企画展示閲覧者数(資料室入場者数) 17,800人	目 標	—			①17,800人 ②80%以上	—
	⑦-2閲覧者に対し、沖縄空手に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	実 績	—			①10,989人 ②94%	—
	⑧-1多言語による解説、リーフレットにより、沖縄空手の歴史・文化に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 ⑧-2多言語端末の利用回数 480回	目 標	—			①80%以上 ②480回	—
		実 績	—			①92% ②522回	—
		目 標					
	進捗状況説明	<p>②、⑥、⑦-2では、沖縄空手に対する理解が深まったかをアンケートで検証したところ、「理解が深まった」と回答した者が80%以上となり目標を達成した。</p> <p>⑤-1沖縄空手を総合的に振興する各種委託事業を実施した結果、空手関係来訪者数は8,871人で目標を達成した。</p> <p>⑧-1多言語化により沖縄空手の歴史・文化に対する理解が深まったかをアンケートで検証したところ、「理解が深まった」と回答した者が92%、多言語端末の利用回数が522回で目標を達成した。</p>					

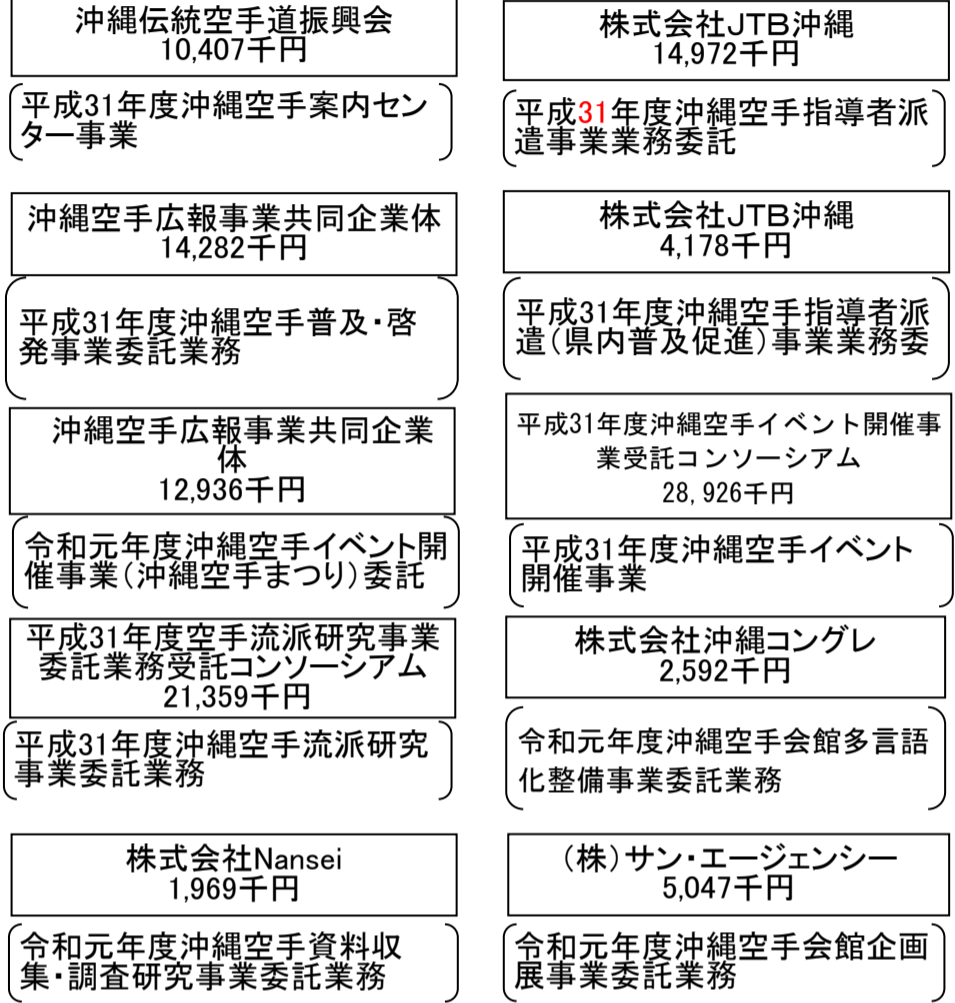
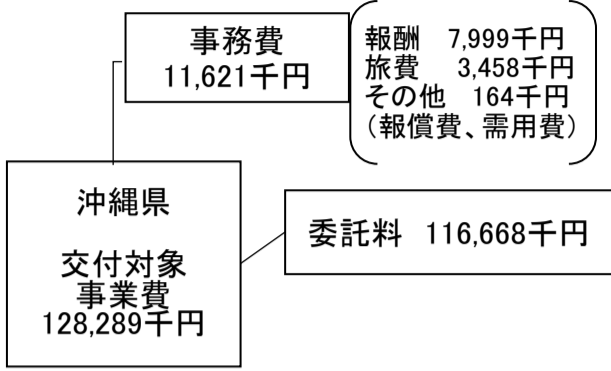
R1-No.200

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)	
取組の検証	<p>①沖縄空手会館供用開始から3年経過しているが、企画展示閲覧者数(資料室入場者数)が年々減少している。</p> <p>②オリンピックで空手が正式種目となったことから、「沖縄空手発祥の地・沖縄」の認知度向上を図るとともに、空手関係来訪者数の増加を図る。</p>	<p>①沖縄空手会館の企画展への集客及び沖縄空手会館の知名度向上を図るため、広報周知活動を行う。</p> <p>②国内外からの空手関係来訪者数を伸ばし、「沖縄空手発祥の地・沖縄」の認知度向上を図るために、地域通訳案内士のスキルアップ研修で、空手に特化した人材の養成を図り、外国人へ観光客の需要を喚起する。 また、沖縄空手に関するPR動画を配信し、国内外に情報を発信する。</p>	
	今後の取り組み方針		
<p>①沖縄空手会館企画展への集客及び沖縄空手会館の知名度向上を図るために、広報周知活動を行う。 具体的には、県内小中高校、特別支援学校(517校)の社会見学地として認知してもらうため、マンガ制作(8ページ)を通して、沖縄空手会館には資料室(ミュージアム)があることを広く紹介し、社会見学、修学旅行等での活用促進を図る。</p> <p>②「沖縄空手発祥の地・沖縄」の認知度向上を図るために、地域通訳案内士のスキルアップ研修で、空手の歴史や著名な人物、各流派のゆかり地巡りなど武道ツーリズムを想定した沖縄空手に特化した通訳人材の養成を図り、外国人観光客の受け皿づくりを通して需要喚起を図る。 また、HP等で沖縄空手に関するPR動画を国内外に配信し、「沖縄空手発祥の地・沖縄」の認知度向上及び空手関係者数の増加を図る。</p>			

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
128,289	128,289	102,631	25,658	0	0	0



資金の流れ、 費目・ 用途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者については、法令に基づき、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘察した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	238	みんなの文化財図鑑刊行事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	教育庁文化財課	事業実施 (予定)年度	H26 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	文化の発信・交流		
事業内容	県民等の郷土の歴史と文化の理解を深めるため、国指定文化財、県指定文化財、市町村指定文化財を紹介する書籍を刊行する。刊行後は、県内の学校及び公立図書館を中心に配布するとともに、ハンドブック版については、観光客へのサービスとして世界遺産などの文化財と関連する施設に配布し、目に触れるようにする。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	19,223		15,778		15,783
		(b)予算現額	19,223		15,778		15,783
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額	—				
	A. 計(b+d)		19,223	0	15,778	0	15,783
	B. 執行済額		18,579		14,650		15,589
	うち交付金充当額		14,863		11,720		12,471
	C. 次年度繰越額		0		15,778	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.6%	#DIV/0!	92.9%	#DIV/0!	98.8%
予算の状況の説明		・執行率は98.8%となっており、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	図鑑刊行	目標	—	1分野	1分野	—	
		実績	—	1分野	1分野	—	
	写真収集	目標	221件	114件	60件	31件	
		実績	242件	141件	63件	46件	
	アンケートをとった図書館数	目標	—	—	—	5館	
実績		—	—	—	6館		
達成状況説明	・実施計画により刊行目標を1分野とし、目標どおり1分野の刊行を行った。 ・文化財図鑑に掲載する写真収集目標を31件とした。目標に対して46件の写真を収集することができた。 ・県内北部・中部・南部・宮古・八重山の5地域で、1地域1館以上の図書館で、史跡名勝編、埋蔵文化財編のアンケートを実施する。 ・アンケートにより読者の文化財図鑑の理解度を検証する。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (R3年度)
	①『文化財図鑑』(有形文化財編)の刊行	目標	—	—	—	1分野	—
		実績	—	—	—	1分野	—
	②『文化財図鑑』の写真収集	目標	—	—	—	31件	—
		実績	—	—	—	46件	—
	③『文化財図鑑』の内容が理解しやすい内容 になっているか理解度確認	目標	—	—	—	80%	—
		実績	—	—	—	95%	—
	【H30年度の成果目標】 『文化財図鑑』(埋蔵文化財編)の刊行	目標	—	—	1分野	—	—
		実績	—	—	1分野	—	—
	【H29年度の成果目標】 『文化財図鑑』(史跡名勝編)の刊行	目標	—	1分野	—	—	—
実績		—	1分野	—	—	—	
【R1年以前の成果目標】 『文化財図鑑』の写真収集	目標	—	114件	60件	—	—	
	実績	—	141件	64件	—	—	
【R3成果目標】『文化財図鑑』5分野とハンド ブック1冊の刊行	目標	—	—	—	—	5分野1冊	
	進捗状況説明	①刊行予定の図鑑は5分野とハンドブック編である。R1年度は実施計画により目標どおり1分野の刊行を行った。 ②文化財図鑑に掲載する写真収集目標を31件とした。目標に対して46件の写真を収集することができた。 ③図鑑の理解度にアンケートを行い、その目標を80%した。目標に対して95%の理解となった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①これまでも文化財の普及書は刊行されているが、説明が専門的であることから内容が分かりづらい。そのため、義務教育修了年限である中学3年生の学力でも理解できる内容や構成を検討し、一般的な人にも分かる内容にする必要がある。 ②刊行後にアンケートを実施する際、より多くの回答を収集し、内容を検証する必要がある。	①児童生徒が理解できる表現を検討しつつ、より知識のある読者でも楽しめる内容・構成を検討する。 ②内容の検証については、普及書を配布した公立図書館と協力していく必要がある。
今後の取り組み方針		
文化財に関する正確な情報を発信するとともに、親しんでもらうために ①刊行した図鑑を検証し、用語集など本文の内容を補助する記載を充実する。 ②文化財図鑑を配布した公立図書館との連携を図り、文化財図鑑を活用してもらう。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																		
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費												
15,589	15,589	12,471	3,118	0	0	0												
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 沖縄県 交付対象事業費 15,589千円 </div> <div style="margin-left: 20px;"> <table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">報酬 3,809千円</td> <td style="padding-left: 10px;">〔文化財調査嘱託員2名(12ヶ月)〕</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">共済費 608千円</td> <td style="padding-left: 10px;">〔文化財調査嘱託員2名の雇用保険料(12ヶ月) 文化財調査嘱託員2名の社会保険料(12ヶ月)〕</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">旅費 546千円</td> <td style="padding-left: 10px;">〔旅費(県内:職員延べ20人) 費用弁償(県内:嘱託員延べ20人)〕</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">需用費 21千円</td> <td style="padding-left: 10px;">〔消耗品(クリアファイル、クリアポケット)〕</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">委託費 10,441千円</td> <td style="padding-left: 10px;">〔写真撮影業務委託(株式会社 Nansei) 図鑑作成業務委託(みんなの文化財図鑑埋蔵文化財編制作委託事業)〕</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">使用料及び賃借料 164千円</td> <td style="padding-left: 10px;">〔レンタカー使用料(17箇所)〕</td> </tr> </table> </div> </div>							報酬 3,809千円	〔文化財調査嘱託員2名(12ヶ月)〕	共済費 608千円	〔文化財調査嘱託員2名の雇用保険料(12ヶ月) 文化財調査嘱託員2名の社会保険料(12ヶ月)〕	旅費 546千円	〔旅費(県内:職員延べ20人) 費用弁償(県内:嘱託員延べ20人)〕	需用費 21千円	〔消耗品(クリアファイル、クリアポケット)〕	委託費 10,441千円	〔写真撮影業務委託(株式会社 Nansei) 図鑑作成業務委託(みんなの文化財図鑑埋蔵文化財編制作委託事業)〕	使用料及び賃借料 164千円	〔レンタカー使用料(17箇所)〕
報酬 3,809千円	〔文化財調査嘱託員2名(12ヶ月)〕																	
共済費 608千円	〔文化財調査嘱託員2名の雇用保険料(12ヶ月) 文化財調査嘱託員2名の社会保険料(12ヶ月)〕																	
旅費 546千円	〔旅費(県内:職員延べ20人) 費用弁償(県内:嘱託員延べ20人)〕																	
需用費 21千円	〔消耗品(クリアファイル、クリアポケット)〕																	
委託費 10,441千円	〔写真撮影業務委託(株式会社 Nansei) 図鑑作成業務委託(みんなの文化財図鑑埋蔵文化財編制作委託事業)〕																	
使用料及び賃借料 164千円	〔レンタカー使用料(17箇所)〕																	

資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘察した上で選定した。 ○嘱託職員は、ハローワークをとおして行き適切に募集した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	